

仙台藩主と酒

仙台市博物館 学芸企画室 黒田 風花

第3回

藩主の仕事と酒

江戸時代の大名の仕事に、酒は欠かせませんでした。仙台藩主も例外ではありません。

例えば、正月の家臣たちとの挨拶では、儀式のひとつとして杯を交わしたり、桃の節句などの年中行事では、膳に酒が添えられたりしました。また、藩主がほかの大名や幕臣たちを料理と酒でもてなしたり、贈答品としても酒が贈られたりしました。

藩主も酒で失敗！

歴代藩主の中でも酒にまつわるエピソードが多く伝わっているのは、初代藩主の

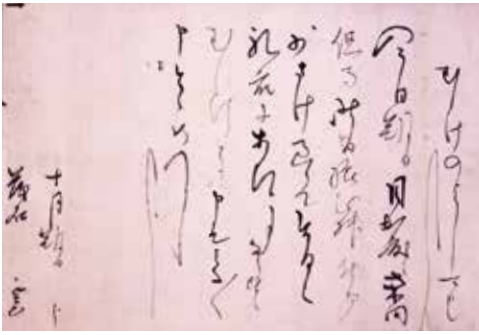


写真1 伊達政宗自筆書状 茂石(茂庭綱元)宛 (年末詳)10月1日 仙台市博物館蔵
酒の飲み過ぎではなく腹の病気だと言うように念を押している。

実は、仙台城には酒造り職人の屋敷があり、酒蔵が併設されていました。現在では造酒屋敷と呼ばれるこの屋敷は、資料や発掘調査などから、仙台市博物館が建つ仙台城三の丸跡の南側にあったことが分かっています。城内に酒造施設がある城は全国的にも珍しく、仙台城の特徴のひとつです。造酒屋敷に住み、仙台藩の酒造職人だった榎森家の由緒書には、初代又右衛門が慶長十三年(一六〇八)に徳川秀忠の剣術指南役・柳生宗矩の紹介で政宗によって大和国(奈良県)から招かれ、仙台で酒造りを始めたことと記されています。政宗が又右衛門

伊達政宗です。政宗は、酔った勢いで家臣の頭を脇差の鞘で殴ってしまい、翌日に自らの行動を反省することがありました。またある時には、前日に飲み過ぎてしまい、仮病を使って家臣たちとの定例の会合を断るよう、重臣の茂庭綱元に手紙で指示しています(写真1)。
また、三代藩主の綱宗は、藩主就任前から酒乱があり、父である二代藩主・忠宗に断酒を命じられるほどでした。親類の大名の意見も聞き入れず飲酒を続け、ほかの素行不良も問題視され、ついには若くして幕府から隠居を命じられています。藩主の酒の失敗は続く大きな問題となりました。

仙台城の酒蔵



写真2 造酒屋敷跡の発掘調査の様子 平成28年(2016)

に、息子たちなど親しい人物へ贈る諸白(江戸時代の清酒の一種)を造らせた注文書の記録も伝わっています。政宗亡き後も榎森家は、藩主へ献上する酒や藩の大所(台所)へ納める料理酒などを造っていました。
江戸時代前期には、藩から榎森家へ酒の材料である米が支給されており、発掘調査でも支給米の荷札とみられる木簡が見つかっています。しかし、藩財政が逼迫してくると、材料の支給や屋敷の修理などの藩からの援助が滞るようになりました。文政十三年(一八三〇)には酒蔵等の建物を自力で維持できなくなり、居宅以外は潰れてしまったという窮状を榎森家が藩に訴える記録が残っています。その後、明治時代に造酒屋敷は失われ、榎森家は町の酒屋になります。間もなく廃業したようです。仙台城で造られた酒はどんな味だったのか、残念ながら今となっては分かりませんが、藩主が飲んだ酒であれば、きっと美味しかったことでしょう。

仙台市史 全32巻

原始から現代(平成元年)までの仙台の歴史をわかりやすく紹介!

「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。

ピックアップ紹介



特別編7 城館

B5判/オールカラー/623ページ 6,285円(税込)
付録:奥州仙台城絵図など、仙台城関連の絵図7点

中世に築かれた城を、地域ごとに写真や地図で解説。仙台城、若林城など近世の城館も紹介しており、上記の記事で取り上げた造酒屋敷についてもふれています。



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています(上記のQRコードからアクセスできます)

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ ▶博物館ツイッター

仙台市博物館 @sendai_shihaku

▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。